

会議の名称	平成30年度 第1回パートナーシップのまちづくり推進会議
開催日時	平成30年7月2日(月) 午後7時00分～8時40分
開催場所	茅野市ひと・まちプラザ3階集会室
出席者	<p>【委員】 河西副会長、牛山副会長、長田副会長、篠原委員、今井委員、野沢委員 山田委員、依田委員、嘉瀬委員、八幡委員、楨原委員、小池委員、入倉委員、 帯川委員、長田委員、小澤委員、池上委員、鷹野原委員、飯田委員</p> <p>【市側】 柳平市長(会長)、樋口副市長、伊藤総務部長、加賀美企画部長、小池市民環 境部長、竹内健康福祉部長、五味産業経済部長、牛山こども部長、篠原都市建 設部長、平出生涯学習部長、北原議会事務局長、後藤会計管理者</p> <p>【事務局】 田中パートナーシップのまちづくり推進課長、国枝コミュニティ推進係長、富澤コミュニティ推進 係主任、五味コミュニティ推進係主任、内山ちの地区コミュニティセンター所長、五味宮川地区 コミュニティセンター所長、吉田米沢地区コミュニティセンター所長、木川豊平地区コミュニティセンター所 長、大蔵玉川地区コミュニティセンター所長、東城泉野地区コミュニティセンター所長、小池金沢地 区コミュニティセンター所長、小平湖東地区コミュニティセンター所長、柿澤北山地区コミュニティセンター 所長、鋤柄中大塩地区コミュニティセンター所長、牛山市民活動センター長</p>
欠席者	義経委員、宮下委員、矢崎委員、伊藤委員、田村委員、渋澤消防署長
発言者	協議内容・発言内容(概要)
会長	<p>司会進行 田中パートナーシップのまちづくり推進課長</p> <p>1 市民憲章唱和</p> <p>2 会長あいさつ</p> <p>こんばんは。早々に梅雨が明けまして、明けた途端に暑い日が続いております。本日は大変お忙しい中、お仕事の後のお疲れのところ第1回パートナーシップのまちづくり推進会議にご出席いただきましてありがとうございます。昨日は消防の郡の大会がございまして、ラップが優勝、ポンプ操法では自動車・小型がともに準優勝となりました。僅差の準優勝ということで、消防団員の皆さんは本当にかんばっていました。</p> <p>さて、このパートナーシップのまちづくりにつきましては、昨年本当に多くの時間を費やしていただきまして、方向性を見出すことができ大変うれしく思っております。今年はこの後報告があるかと思いますが、準備委員会の方で取り組んでいく方向付けをしていただきました。今日はそれを中心に議論をさせていただきます。今年、職員についてもパートナーシップや協働について、しっかり検証してほしいという意見があり、先週2日間に分けて全職員が研修を受けました。何らかの形で市民の皆さんにも話を聞いてもらえれば良いかなと思いつつ私も出席しました。</p> <p>皆さんから忌憚ないご意見をいただく中で、第5次総合計画による公民協働</p>

	<p>の取り組みを位置付けていきたいと思えます。どうぞよろしくお願いいたします。</p> <p>(会長により進行)</p>
会長	<p>それでは会議を進めて参ります。よろしくお願ひします。お手元の会議次第の4会議事項(1)準備委員会の検討経過報告につきまして、説明させていただきます。</p>
副会長	<p><別紙1・2について説明></p>
会長	<p>ただ今、準備委員会でのご意見と、それに基づくたたき台を説明をさせていただきました。もし矢崎委員がいれば若者の参画についてご意見をお聞きしたかったのですが、今日は欠席ということ。若者の参画について事務局より説明をお願いします。</p>
田中パートナーシップのまちづくり推進課長	<p>矢崎さんは青年会議所(JC)所属で、グループの中ではまちづくりに対して様々な取り組みをされていますが、JCの仲間内の中にとどまっているということ。まちづくりということになると、他の団体とも協働していかなければなりません。そういう場がなく、新たな取り組みとして若者が参画するまちづくりの場を作っていきたいということ。これは当推進会議で進めるのではなく、当推進会議の発案ということで新たな場を設けて取り組んでいきたいということ。</p>
会長	<p>別紙1③市職員のスキルアップについては、この間の研修に若干ふれてください。</p>
国枝コミュニティ推進係長	<p>昨年の推進会議での検討結果を踏まえ、各課職員から代表を出してもらい、パートナーシップのまちづくり推進チームを結成しました。そこで情報を共有しながら同じ思いで進めていければ良いと思い取り組んでいます。その一環として、職員のスキルアップを図るということで6月26・27日に職員研修を行い、4回に分けて400名の職員が受講しました。講師は京都市役所の職員で、20年以上市民との協働の取り組みに携わっている方です。研修内容の3つの教訓が私の頭の中に残っております。「相手の仕事に対する理解と敬意なしに協働は成り立たない」、「目的の共通理解なしに協働は成り立たない」、「立場上の利害や都合を前面に出すと協働は成り立たない」ということです。このような取り組みの中から出てきた教訓の重みを感じながら聞かせていただき、非常に参考になる職員研修となりました。協働やパートナーシップで取り組んでいく上では、やはり目的の設定が重要で、目的に向かって皆で協力していかなければならないところを、まず話し合っていかなければならないと思えます。今後は個人のスキルアップを図るために、ファシリテーション能力向上研修など様々な研修を実施していく予定です。研修を踏まえ、今年取り組んでみてどうかを委員の皆さんからご指摘いただければと思っています。</p>
会長	<p>これを踏まえまして、ご意見がありましたらご発言をお願いします。</p>
委員	<p>今説明にあった京都の方の研修ですが、とても良い研修だったのであれば、私</p>

	<p>たちも受けたいという思いがあります。</p>
田中パートナーシップのまちづくり推進課長	<p>私も職員の立場で聞かせていただきましたが、非常に心に残る、共感の持てる研修でした。私個人としては市民の方々にも理解していただきたいという思いがあります。もしお望みであればそういう機会を作っていきたいと考えています。</p>
会長	<p>この会議でやろうということになれば、どんどん企画していくべきだと思います。私もわかりやすい研修だったと思います。この後取り組み方針について具体的に詰めていきたいと思います。経過報告については良いでしょうか。</p> <p>次に（２）今年度の取組方針についてですが、今年度にどのような取り組みにしていくかを議題にしていきたいと思います。事務局の方から説明をお願いします。</p> <p><事務局より別紙３について説明></p>
会長	<p>別紙３について説明しました。先程の準備委員会の報告と合わせて皆さんに議論していただくことになると思います。準備委員会では分野別ネットワークと運協をそれぞれに分かれてやればどうかという意見がありました。運協の方は7月10日に運協会長連絡会を予定しています。その会長連絡会が運協としては2回目の会議になってくると思います。皆さんはお忙しいのであまり時間ばかりとってはいけないかと思えます。分野別と運協に分かれて進めていくということについてはどうでしょうか。準備会委員長の方でこの件について補足はありますか。</p>
副会長	<p>昨年度も結局は分かれてやっていたので、そちらの方が突っ込んだ話ができるのではないかということです。</p>
会長	<p>第2回ではそれぞれ分かれて行うということでよろしいですか。</p> <p>(意見なし)</p>
会長	<p>大きな方向性という意味でも、そのような形にしていきたいと思えます。この推進会議の中で何を大事にしていけば良いのかということになりますが、ご意見をお願いします。</p>
委員	<p>書いてあることはもったもな事ばかりだと思いますが、実際にこれらを推進することは大変なことだと思います。職員研修の中では「目的を共有する」とか「立場上の利害を除く」とか「相手への敬意」とかあり、まさにそのとおりだと思います。その中で、立場を離れたファシリテーター、コーディネーターを任命することによって、立場を超えた議論をする必要があると思えます。この目標を達成するには、それぞれ利害関係を持った者の話しだけでは進みにくいと思えます。自分の立場を主張するなどと言うと難しいかもしれませんが、第三者的な人をお願いしてコーディネーションしてもらおうことで向上していくのではないかと思います。</p>
会長	<p>コーディネーションというのは、推進会議に対してのコーディネーションと</p>

	<p>ということですか。</p>
委員	<p>分野別で集まったときにも、そのまま議論するだけになってしまいます。実際4回で結論を出すということになると、だいぶ端折った議論になるか、言いたいことが言えない議論になると思います。立場上の利害関係を離れるには、団体にとって達成したい、最も価値のあることに向けさせることが必要になると思います。対等な立場でやっていくには、コーディネーター的な立場の人を置くと割とスムーズにいくと思います。</p>
会長	<p>それには2つの側面があると思います。1つはこの会議をコーディネーションする人という考え方があります。もう1つは運協やいろんな団体が活動していくことに対してコーディネーションするという考え方です。</p>
委員	<p>この会議が4回開かれる中で、運協と分野別が別々に話し合いをすることになるかと思いますが、運協と分野別を混ぜこぜにしてコーディネーションすることはできないと思います。各々の中で割と広い話が出てしまったりすると、「立場上」という摩擦が起きたり、摩擦が起きると信頼関係がないと回避されてしまうというようなことが起こります。コーディネーションする人がいない中議論し、立場が異なる人たちでかつ信頼関係が十分ないと、結局は真っ向からの議論を避けて、何となく上辺だけの議論になってしまいます。それではもったいないので、コーディネーターに入ってもらい信頼関係を築き、会議のときは信頼関係のある状態で議論した方が良いです。資料には重要なことが書いてありますが、慣れていない人がやろうと思うと、単なるお題目で終わってしまいそうな気がします。</p>
会長	<p>そのご意見はよくわかりますが、皆さんにその役目があると思います。団体のメンバー、市職員も合わせて目的の共有、情報の共有、コミュニケーションをとる必要があると思います。コーディネーションするということも悪くはないと思いますが、まず仕切れないだろうし、一番わかっているのは当事者同士なので、その中で足りないところを意識して事業をやっていくということだと思います。その意識付けとして、研修をなるべく早い時期に開催するのは大事なことです。次の推進会議は拡大推進会議や推進大会にしても良いかもしれませんが、それぞれに関わっている人たちに出てきてもらって、話を聞くということもありかと思います。</p>
委員	<p>それぞれの利害というのは、がつつり向き合ってもらって、それぞれの道に進んでいくのがあるべき姿だと思います。しかし表だって話をするときには、それぞれが求めているところはなかなか抽出できないと思います。相手を知らないで利害をぶつけ合うのと、お互いの利害を知っている人がつなげるのでは違います。別紙3の10項目は重要な順番に書いてあるのだと思いますが、それぞれの団体の意見を生かし、コーディネーションしながらやっていくとうまくいくと思います。</p>
副会長	<p>昨年度はかなり時間をかけてそういう感じのことをやって、別紙3の項目が出てきました。例年になく多くの委員から切実な意見が出て、ファシリテーターのような人がまとめるという形でやってきました。今年度はそれを受けて、分野別の実動をどのようにやっていくかということに重きを置かないといけない</p>

委員	<p>し、再び別紙3のことを議論しても意味がありません。今は別紙3の10項目からどうやって改善していくかを考える時です。第2回では分野別ではこうやりたいということを出し合ってもらって、それを参考に各部会で改善していくように一歩進めた方が良いと思います。</p>
委員	<p>昨年度たくさんの意見が出て10項目に絞られましたが、それを実際の活動に結び付けていくことがやるべきことだと思っています。それを実践という形で行動(DO)としてパートナーシップに生かしていくというサイクルは良いと思いますが、実際にはどうやってやっていくのか疑問に思います。先程の副会長の意見では分野別ごとに事情が違うということですが、活動の中で改善していくような取り組みをしていくことが一番効果があると思います。第2回でこれをやりますと宣言して、それを第3回で検証(CHECK)するようなイメージだったのですが違いますか。</p>
副会長	<p>本当はそういう風にやらないと進んでいかないと思います。新しい団体はモチベーションがあるので進んでいきますが、既存の団体はマンネリ化・疲弊してきていて立て直すのが大変です。改善していくつもりで一歩ずつ進んでいくと思います。</p>
会長	<p>要は別紙3に集約されたことを意識して活動していければACTにつながるのだと思います。それをどうしていくか決めるのがこの会議の役割だと思います。運協の方では7月10日に会長連絡会議を予定しており、取り組みの情報交換をし、それを生かして具体的な形として取り組んでいくことが理想だと思います。分野別では第2回会議の部会で話したことを、それぞれの団体で実践するということになります。</p>
副会長	<p>これは私の個人的な考えですが、情報分野では団体内で何が問題になっているかを考えてピックアップしていきたいです。一番の問題はできてから12年も経って、情報の進歩に対応できていないということです。時代遅れな部分の見直しが必要です。⑩の「人材を育成する」に関連して、若い人を若干入れています。もう少してこ入れする必要があると思います。各分野でいろいろ考えてきてもらって、それを発表してもらえば参考になると思います。こんなところを重点的に取り組んでいくというようなことを情報共有して、自分の団体に還元してもらおうということです。</p>
委員	<p>別紙3は進める上で大切なことであり、課題ではありません。この10項目を下敷きにして行動を起こすということです。例えば⑩は、人材育成をテーマにするのではなく、進める上で人材を育てることが大切だと言っています。</p>
副会長	<p>各分野別団体で、同じテーマで取り組むといってもそれぞれ違うと思います。昨年度の集約として大切なことが①～⑩まで出ているので、各団体がそれぞれ重点的にやることを決めて進めるということです。</p>
委員	<p>①～⑩はどれをやるかではなくて、進める上で大切なことです。参加する人達が皆で意見を出し合って目的を共有する、情報を共有する。パートナーシップのまちづくりを理解するというのは、協働とは何かというトレーニングをする。合意形成をするというのは、合意形成をする上でトップダウンをしないとか、そう</p>

いうルールっぽい気がします。①～⑩のどれかをやるというよりも、①～⑩の全部を意識しながら取り組んでいくという風に理解しています。

副会長

そういう考え方でも良いですが、実際に行うのは各団体です。それぞれの団体が今年こういうことを取り組みたいという時に、①～⑩を参考にしてくださいということです。

委員

分野別と運協が別々に議論を進めるか、一緒に進めるかということについて、そもそも何のために運協ができたかということですが、平成7年に福祉・環境・教育ということが大事なので皆で集まって取り組むようになり、それから10年が経ってから運協ができ、地区の各団体を横に並べ、分野別も1つの軸にしながら全体を中長期的に考えて地域を元気にするということが目的です。昨年度は私もいろいろ言いたいことを言ったり聞いたりして非常に勉強になりました。絶えず議論を尽くしたと思うのである程度は理解したつもりです。運協は何のためにあるかということの時系列的に考えて、こういうことが大事だということが出されました。分野別と運協がどうのこうのというのは少し議論が違ってくるので、運協会長たちもどういう意見を言ったら良いのか迷います。現状を見ながらどういう風にやっていきたいかということ、もう少しわかりやすく説明した方が、私たちも議論しやすいと思います。日本一の茅野市を作るつもりで皆で議論してきたつもりです。

会長

まず最初に分野別市民ネットワークがあって、全市的にそれぞれの団体が課題解決に向けて取り組んできて、そこに運協ができました。当初もっと有機的に連携し合えば良かったと思いますが、全市的な取り組みだけではなく地域と連携する中でさらに輪を広げていきました。どんぐりネットワークの考え方はまさにそういうものでした。いろんな課題を有機的に解決していけば理想の姿になると思います。例えば運協の中に環境美化を行っている団体があります。そこには環境自治会も絡んでいますし、美サイクル茅野に手伝ってもらうとか、関係が不断にできてくれば当初のねらい通りになると思います。現在はもっと有機的な結びつきができるようになってきたのだと思います。

せっかくですから1人ずつご発言をお願いしたいと思います。ポイントは今年度の活動をどのようにしていくか、実のある活動・具体的な活動に展開していくために、どんな推進会議にするかということです。

委員

意見集約をしていただいた10項目というのは、分野別だけではなく運協の方から出たものも入っていると理解しています。第2回で分野別と運協が別々に議論するというのですが、福祉21ビーナスプランが安心安全のまちづくりのために計画として生きていくと考えたときに、10項目のどれかで運協とつながり、住民に周知され、実のあるものになるような会議にしていければ良いと思います。第2回ではこういうことができれば良いという、具体的な話ができれば良いと思います。

委員

私は美サイクル茅野の代表ですが、市長のお話の中に、各地区に広げるために運協の環境分野と統一して活動するということがありました。美サイクル茅野では特に市民に周知することが大切で、頑張って活動してもなかなか市民に通じないことがたくさんあります。この辺をどうするかが大きな課題ですが、運協や環境自治会が同じ方向を向いていくことを期待しています。

委員

別紙1③職員のスキルアップのところに「現場・実践」という文言が入っており、前回の会議のときに私が言った、現場で起きていること、実践が大事だという意見が反映されており大変ありがたいことだと思います。行政と、運協・市民団体の関わり合いの中で意見を言いたいのですが、行政のあるべき姿というのは、現場で実践するための制度と組織の体制支援に尽きると思います。そういう意味での行政職員の資質向上とスキルアップが必要だと訴えているわけです。例えば福祉推進委員や運協は前市長が設置し、形をつくって魂入れずと言われているケースがありますが、実際には組織が機能的に権能をもってできておらず、何かを決めようとしても決まりません。実際に「湖東の消防を考える会」という組織を主導してやってきましたが何一つ決まりませんでした。なぜかという運協に権能がないからです。行政が主導して組織を作り、その組織に権能を与えて実践をしていく、そういう下支えが絶対に必要です。なおかつ前市長はパートナーシップとは何か問われたときに、明確に「金を出すこと」と答えました。財政支援の下支えなくして、成熟した市民活動団体を各課・係で担当してくれるようになるまで20年はかかるわけです。そういう意味でさらなる財政支援が必要であるということを提案します。宮崎県の宮崎市では、現在は廃止されましたがコミュニティ税というものをとっていました。茅野市で2,400万円の年収があるとすれば1地区240万円の収入になります。突拍子もない考えですが、行政側で知恵を絞って、どうすればそういう制度や仕組みができるか考えるべきだと思います。

委員

議論は昨年度やったので、実践して少しでも良くしていくべきだと思います。昨年度は過去の事例をもってきて、ああいうことをやった、こういうことをやったとやりましたが、今年度は課題に対して何ができるということをしなければいけないと思います。そういう意味で昨年度の議論を実践の中で生かしていく取り組みになれば良いと思います。

委員

別紙3で目的を共有するとか、情報を共有するとかありますが、目的を共有するために何をやるということではなくて、これから行政と市民が行うことの中に、目的が大切だからこういう風にしようという内容を考えていくことが大切だと思います。それをこの会議の中で中間報告なり実践報告なりをするような形がとれば良いと思います。先程の職員研修の中で、大切な3点が挙げられたという話でしたが、京都の市民はどうやって目的を共有したのか是非聞いてみたいと思います。職員だけでなく市民もそういう話を聞ければ良いと思います。

委員

協働を理解することがすごく大事だと思います。協働は単に集まって最大公約数の話をするのではなく、集まった人達がお互いの意見を共有して、目的以上の成果に変えていくことが大事だと思います。協働を成し遂げるために何かを実践し、その結果を評価しなければならないという厳しさをもってやると良いと思います。

委員

ここに集まっている皆さんだけではなくて、市民の皆さんにとってのより良いまちづくりという部分が大きな目標になると思います。今のところ市民と行政の距離がまだだいぶ開いていると感じます。コーディネーションが必要という話もありましたが、私は逆に市民の力を信じれば良いと思います。本当に熱い思いで自分達のまちをより良くしていこうという人達がこの地域には大勢いま

	<p>す。その人達が個々に動いているのでなかなかまとまらない、同じ思いでも足を引っ張ってしまったり、型にはめたりすることが若干あるように思います。その辺をうまく調整して市民の力を活用していくということは、行政の方たちに期待したい部分だと思います。</p>
委員	<p>別紙3に大切なことの意見集約が10項目ありますが、多いというのが率直な意見です。3つ位に集約した方が良いと思います。</p>
委員	<p>先程市長が言った実践の部分は、他の運協会長が言ったことが切に出ていたと思います。運協ができてから約10年経ち、昨年度はこれまでになく運協で議論をし、新たなスタートを切ったような気分です。分野別に対し今市長が声をかけたことで、初めて運協という言葉が出てきたのではないかと思います。分野別の実践の場としての運協というものがまだしっくりきていないという歯痒さを感じました。別紙2では分野別と運協は別々に進めていくような書き方ですが、これから進めていくについて、分野別の方たちの意見を必要としています。今日は分野別と運協の間にある溝のようなものを改めて感じましたが、運協の方としては実践の場としての用意はできていると思っています。どういう風に進めていくかとか、進める上で大事な事とかは当たり前のことなので、それについてはどうこう言わなくても良いと思います。それぞれの地区で運協がどういう風にやっていくかは十人十色なのでわかりませんが、今年度にいろんな形のもの運協から差し示せるとしています。運協の関心は、実践の段階に入ってから分野別の方たちとタグを組めるというところに入ってきていると思います。</p>
委員	<p>方法論に終始しているような印象を受けます。別紙3の①～⑩は、ここにいる運協会長にとっては、長年の経験で体に染み込んでいると思います。文にしてみるとそうなのかと思いますが、文にするとこうなるというだけであって、実際は体に染み込んでいる感じがします。宮川地区でもいろいろと活動が始まっていて、今日の資料は参考にさせていただきますが、結果を見てもらいご意見をいただきたいと思っています。分野別の皆さんにもご意見をいただきたいと思っています。</p>
委員	<p>皆さんの意見と近く、やはり実践を通して伸ばしていくのが良い考えています。</p>
委員	<p>市民感情としてパートナーシップのまちづくりを進めていかなければならないという気持ちがあります。しかし実際は市民の理解とはほど遠いと思います。運協会長としてどのようにしてパートナーシップを地区に根付かせるか模索しているような状況です。別紙3の10項目の内「目的を共有する」、「情報を共有する」、「パートナーシップのまちづくりを理解する」が非常に重要だと思っていますし、これからどういう風に進めていくかを考えているところです。</p>
委員	<p>昨年度話を聞いて、短い任期の中でいろんなことをやらなければならないと感じました。今までやってきたことをまとめ上げていくしかないと考えております。</p>
委員	<p>今日のように市長や部課長が集まって議論している内容を、もう少し市民にPRすべきだと思います。運協とは何かとか、それなりの立場の人が集まって何</p>

委員	<p>をやっているか聞かれることがあります。そもそも区長会と何が違うのか聞かれることもあります。私は運協の出来たきっかけや生い立ち、経緯、何のための会かなどを説明しています。運協は広報ちのにも載らないし、がんばっても存在自体パツとしない部分もあり、市民に浸透していないと思います。何らかの形でPRしてもらえればやりやすいと思います。</p>
委員	<p>私もまだまだ市民がパートナーシップのまちづくりを理解するところまでは行っていないと思っています。運協に対する認知度もかなり低いと思います。パートナーシップのまちづくりが何か漠然とでもわかってくれば目的とする方向に進んでいけると思います。</p>
副会長	<p>進め方について、運協と分野別に分かれて行うということに異論はありません。私個人としては分野別がどのような取り組みをしているか見えていないので、勉強できるような機会を与えていただきたいと思います。「目的を共有する」とありますが、目的がよくわかりません。茅野市としての目的となるかどうか私としては理解できません。この目的についてはもう少ししっかりとした方が良くと思います。パートナーシップのまちづくりの活動で1つでも課題を解決し、それが地区の方に応用できれば良いと思います。</p>
副会長	<p>私は運協ができてからずっと携わっていますので、皆さんとは少し違うと思っています。単年度で会長が替わる運協は大変だと思います。パートナーシップのまちづくりは理解するのに1年以上はかかりますので、理解しないで終わってしまう人もたくさんいました。やはり長く携わらないとだめだと思います。その中で分野別の人、他の運協会長や市の職員と話をしています。それが運協を伸ばしていくための力となりますので、そういう取り組みは必要だと思います。今日は皆さんの意見を聞いてありがたく思っています。</p>
副会長	<p>私は商工会議所の方から来て、運協も分野別も全くわかっていません。先日の準備委員会のときも言いましたが、ここ数年で、市の職員と私たちのような市民がすごく近づいてきたと感じています。行政の方は夜遅くまで様々なことを考えてくれたり、10数年来関わりをもってやってきました。今日の会議もそうですが、ここ数年ですごく近づいてきたと感じています。池上委員の言うとおりに、運協が知られていないということはつくづく感じています。運協のPRをしてもらえればどんどんまた近づいていくし、一般市民を巻き込んでいくのに良いと思います。私は行政の方達にはすごく感謝しています。</p>
会長	<p>私は意見を言ってきたので、ここでの意見を差し控えますが、分野別と運協が分かれて議論するのは第2回だけで、第3回、第4回は合同でやります。第2回から分野別と運協が分かれて進むということではなく、第2回ではより具体的なことを考えるために分かれるだけです。第3回、第4回は合同でやって、それぞれがコミュニケーションをとって進めていくことになります。</p>
	<p>それぞれにポイントを押さえた意見だったと思います。今副会長にまとめていただきましたが、第2回ではより具体的な見解を出すように議論をしていただきたいということです。運協の方は7月10日に運協会長会議があるということをお願いします。若者の参画をどうするかは私も非常に興味があります。推進会議でできることがあればしていけば良いと思いますし、私たちが関わらな</p>

	<p>くても盛り上がるようなことがあればそれはそれで良いと思います。皆さんからはまたご意見をいただきたいと思います。</p> <p>京都の北川先生の話は私も是非市民の皆さんにも聞いてもらいたいと思いました。なるべく早い時期に推進会議が主催で企画してよろしいでしょうか。</p> <p>(異議なし)</p>
会長	<p>多くの人に参加してもらおうような体制でいきたいと思いますのでよろしくお願いします。(1)～(3)を通して何か意見はありますか。</p> <p>(意見なし)</p>
会長	<p>それでは(4)市民活動センターの事例紹介をお願いします。</p>
牛山市民活動センター長	<p><別紙4に基づき説明></p>
柳長	<p>運協の皆さん、市民活動団体の皆さんには、もっとこの場を活用していただき人の輪が広がることで、パートナーシップのまちづくりの展開の可能性が広がってくると思います。</p> <p>(5) その他で何かありますか。</p>
国枝コミュニティ推進係長	<p>運協連絡連絡会議が7月10日に行われます。第2回分野別部会の日程をここにいらっしゃる皆さんの希望を聞きながら決めたいと思います。</p> <p>(委員の日程を聞き取り調整)</p>
国枝コミュニティ推進係長	<p>それでは第2回分野別部会は8月7日(火)に開催したいと思います。</p>
野明市民活動センター係長	<p>茅野市では昨年度からまちづくりコーディネーター養成講座を開催しています。職員のスキルアップを含め、人材の育成はこれからのまちづくりに不可欠となっています。活動の長い団体は、後継者探しや人材の育成に苦勞しています。メンバーの出入りが活発な団体は目的や目標の共有、引継ぎに苦勞しています。これは市民活動団体に限らず、地域の団体やPTA、企業にも起こっている課題です。ないものを要求する社会ではなく、これからは今あるものをつないで豊かなまちづくりをする形になってきています。それには連携や協働の視点から活動していくコーディネーターが必要となってきます。現場でコーディネーターとして活躍するために、ファシリテーションやプロデュース、プランニングなどを専門とする様々な講師をお呼びして実践を交えながら学ぶのが、この講座の大きな特徴となっています。今年は養成講座の前に体験講座を企画しました。現在コーディネーターとして活躍されている方をパネリストとしてお呼びして、実際にどんな活動をしているかお聞きします。皆さんだけでなく思いを共にする方も一緒に参加するのがおすすめの参加方法です。部長さん達にはぜひこの人に、この職員にという人がいれば勧めていただきたいと思います。上司に認められることで仕事のモチベーションアップにつながってくると思います。是非皆さんからのお申込みをお待ちしておりますのでよろしくお願いします。</p>

会長 …… それでは司会を事務局にお返しします。

田中パートナー …… 皆さん今日は遅くまで大変お疲れ様でした。第1回パートナーシップのまち
シップのまちづ …… づくり推進会議を終了とします。
くり推進課長

…… (閉会 午後8:40)